

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

臍帯血バンクにおけるリモート環境の確立

研究分担者 松本 加代子 中部さい帯血バンク採取推進部長

研究要旨:中部さい帯血バンクではコロナ禍においても採取施設との情報交換が通常期と変わらずしっかりと出来るよう、リモート環境の整備に取り組み、SIMカードを内蔵したLTE対応のモデルのノートパソコンを全採取施設に配備した。それにより、これまで郵送していた書類をメールの添付文書として送付する等の効率化を図ることが出来、より詳細な情報の提供・対面对応も可能となったので、今後、採取施設のさらなる活性化が期待出来る。

A. 研究目的

臍帯血バンク事業において採取施設は重要な位置を占めており、同施設の協力がバンクの命運を担っている。多忙な業務の中、継続して協力して頂くには、機を見てバンクから情報提供を行ない、モチベーションアップに努めることが必要である。しかしながら、コロナ禍においては、採取施設を訪問することも、多くのスタッフが一堂に会する研修会を開催することも困難な状況にある。そのため、通常期と変わらずしっかりと情報交換が出来るよう、リモート環境の整備に取り組むこととした。

B. 研究方法

1. 連絡用パソコンの準備

各施設のインターネット環境に影響を与えないよう、SIMカードを内蔵したLTE対応のモデルのノートパソコンを選択し、バンク連絡用の固有メールアドレスも設定した。

2. パソコンの配備・動作確認

中部さい帯血バンクの全採取施設に配備し、メール交換およびZOOMによる動作確認を行なう。

C. 研究結果

1. パソコンの配備

2020年12月7日～12月24日に、全13採取施設を訪問し、操作方法を説明した後、設置を依頼した。

2. 動作確認

2020年12月11日～2021年1月28日に、全13採取施設とのメール交換、ZOOMによるリモート会議を実施し、動作確認を行なった。

3. 定期教育訓練の実施

訪問日程が合わず、令和2年度の定期教育訓練が未実施のままであった2施設に対し、2021年1月18日、1月27日に、ZOOMを用いて定期教育訓練を実施することが出来た。

D. 考察

本研究結果より、メールおよびZOOMによる

全採取施設との情報交換が可能となった。
今後は、毎月各施設に郵送していた採取～保存実績等の書類をメールの添付文書として送付することにより情報伝達を効率化するとともに、詳細情報の提供に努め、ZOOMによるオンライン会議を毎月開催するなどして、各施設との情報交換をより充実させ、活性化を図りたいと考えている。

E. 結論

SIMカードを内蔵したLTE対応のモデルのノートパソコンを全採取施設に配備することにより、メールを通じた情報交換、リモート形式での会議開催が可能となり、情報提供活動が充実した。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

加藤 将大、松本 加代子、加藤 剛二、森島 泰雄「より良い臍帯血の保存公開に向けた中部さい帯血バンクの取り組み」ワークショップ2 [臍帯血バンクの現状と課題]：第43回日本造血細胞移植学会総会 2021年3月

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

リモートワークの体制整備 ー 採取施設への連絡用パソコン配備 ー

背景

採取施設との情報共有 → 活性化

5月 : 採取病院研修会 (集会型)

5~7月 : 各施設での定期教育訓練



コロナ禍において実施困難に...

解決策

メールでの情報伝達
Zoomによる情報共有



連絡用パソコンの配備

SIMカード内蔵
Outlookメールソフト
PowerPoint, Word, Excel

パソコンによる情報共有

全13施設への配備 2020年12月7日~24日



稼働確認 メール、Zoom



定期教育訓練を実施予定

本年度未実施施設 (2カ所)

今後

情報伝達の効率化

紙ベース → 添付ファイル

情報提供の拡充

頻度の上昇

対象者の増加



採取施設の更なる活性化